

羊ヶ丘養護園安全委員会ニュース

羊ヶ丘養護園 VOL. 25 平成29年11月3日発行 編集者：細見・細野

第37回安全委員会が平成29年10月26日に開催されました

～今回の報告ケースについて～

今回の定例会議では、平成29年8月9日から10月14日までに起きた5件の処理対応ケースについて報告をしました。今回報告したケースでは、年齢差のある児童間の威圧が危惧される暴力や遊びの延長によるもの、性的ないたずら、職員と児童間のトラブル、喧嘩になった当人同士以外の助長による暴力がありました。小さなトラブルにもきめ細やかに対応していることが大きな暴力へと繋がらずにいる羊ヶ丘養護園の取り組みを山岸委員長より評価されました。

～今回の安全委員会で話されたこと～

今回の報告ケースの中で、委員の皆様と、生活の場である施設の様子と学校での様子を照らし合わせて児童の課題を検証することもでき、改めて施設だけではなく、児童相談所や学校の先生たちとの連携した支援の大切さを感じました。

現在本園が抱えている児童ケアの課題を委員の皆様と確認し合い、今後の対応について意見を頂くことができました。その中の一つとして、ユニット化になったことにより、職員と児童、児童間の密着された関係性が得られることに繋がっているが、そのメリットとデメリットについて話題にあがりました。トラブルに関係のないユニットの小さい子が大きい子にいいつけることでトラブルの引き金となることや、関係性が密着されることにより、生活の中での積み重なる不満が児童間のストレスに繋がることがデメリットとしてあげられました。そのことが原因となり「威圧」「不安」として子どもたちに表出されることが予測されるため、児童の不満の積み重ねをケアで緩和していくことと、威圧が暴力に繋がるということを子どもたちへ伝えていく必要があると助言を頂きました。

7周年を迎える羊ヶ丘養護園の取り組みですが、今後も職員のケアの一貫性を大切し、子どもたちにとって成功体験の積み重ねと学びの場となるよう、子どもたちへの支援を強化していきたいと思っております。

お知らせ

*安全委員会が今年で7周年を迎えました！7周年記念集会は、12月5日（火）を予定しています。

今年のスローガンは「暴力をなくして安全で安心な生活を作ろう。学び育ち合う仲間～夢の種を育てあおう」です。これからみんなで夢の種を育てられるようなポスターを作っていきます。

*全国児童福祉安全委員会連絡協議会 第9回全国大会が11月28日～29日に山口県で開催されます。

「子どもの信頼に応えられる仕組みを目指して～あらためて安全委員会方式の標準化を考える～」をテーマに3名の職員が羊ヶ丘養護園を代表して学んできます。

報告ケースの中で同じ子どもの名前が多くあったり、キーパーソンとなる子どもの存在があります。子ども達の特性、家族関係、入所に至るまでの家庭環境や養育背景が子ども達のトラブルや暴力の理解に大きく影響してくることを改めて感じました。暴力についての理解、正しい他者との関わり方を習得させていくために、安全委員会の取り組みと同時に、日常における子ども達への意図したケアが重要となります。

生活の中で他者との関わり方、喧嘩の解決の仕方などの社会性をいかに身につけさせていくか・・・他者を思いやる心をいかに育てていくか・・・

子ども達の心の成長ができるよう今後も支援していきたいと思っております。

地域小規模児童養護施設白樺 ホーム長 細見亜紀子

今回陪席させて頂き、子どもたち一人一人が外部委員の皆様や、様々な機関の方々に見守られ、支えられていることを改めて知ることが出来、とても温かい気持ちになりました。

安全委員会が、子どもたちに浸透する一方で、威圧に対するケアの在り方やマンネリ化などの課題が危惧されていますが、一時のトラブルの解決の場としてだけでなく、学びの場として機能し、着実に子どもの成長につなげていくことが出来るよう職員のスキルアップも必要だと学びました。様々な方々の応援を糧に、今後も子どもたちと共に、安心・安全な生活をつくれるよう努めていきたいです。

児童指導員 細野 楓